

風土記の丘の花だより³²¹

今、そしてこれから見られる植物(2026年5月16日)

まるで夏のような陽気になってきました。このまま暑い季節がやってくるのでしょうか。そろそろ熱中症にも気を付けながら歩かなければなりませんね。風土記の花も、例年とは少し違った時期に開花しているものが少なくありません。



ノアザミの花がきれいに咲いています。葉はトゲトゲですが、花はとても可憐です。アザミの仲間はたくさんありますが、この辺でアザミといえばこのノアザミです。アザミはキク科の植物です。タンポポなどと同じようにたくさんの花が固まって咲いて、私たちが目にする一つの花になっています。細長い1本1本が一つの花です。花は終わると綿毛ができます。それが風で飛ばされて分布を広げているのです。トゲに注意しながら、可愛い花を観察してください。



これもアザミみたいですが、名前はキツネアザミ。似ていると言えば似ていますが、やっぱり何か感じが違いますよね。名前は同じアザミでも、上のノアザミなど、アザミの仲間ではありません。では「何の仲間なんだ!」と言われそうですが、キツネアザミはキツネアザミの仲間なのです。いわゆる「一属一種」といって、日本にはこの仲間の草はこれしかありません。アザミと思って、近づいてよく見るとアザミではない。これはキツネに化かされたな、ということが語源であると言われていています。



陶磁器のように真っ白なネジキの花が咲きました。幹の樹皮が捻っているので「捻木」という名前が付いたツツジ科の木です。ツツジといってもよく知られるヒラドツツジやサツキのような花ではなく、ドドウダンツツジのような釣り鐘型の花を下向きに付けます。有毒植物ですが、新芽が赤くてきれいなことや、秋にはきれいに紅葉することなどから人に好まれ、庭木や盆栽としてよく植えられています。秋には実もできますが、茶色で、いささか地味なので目立ちません。



「なんじゃ こりゃ」みたいなものが写っています。これはノビルです。タマネギでいうと「ねぎぼうず」みたいなところから、何か細いものが何本もニョキニョキ出ています。ねぎぼうずはタマネギの花ですが、ノビルの場合、そこに花が咲くときもあれば、「むかご」が付くときもあります。そして、むかごから新芽が出ることも多く、ややこしいですが、それがこの写真です。ふつう、山菜として食卓にのぼるのは地中にあるラッキョウみたいな部分です。 松下